

さいたま市とOpenStreetは、2018年にシェアサイクルの実証実験を開始したことを皮切りに、2019年にはスクーター、2020年にはシェア型マルチモビリティ実証実験を開始し、さらには2022年に包括連携協定を締結しました。現在ではシェアサイクルに留まらず、電動サイクル・スクーター・小型EVを含むマルチモビリティでのシェアリングサービスを展開し、これらの交通インフラを起点に、市や地元事業者とともに広くまちづくりに取り組んでいます。

さいたま市のスマートシティ推進コンソーシアムや脱炭素先行地域の取り組みに参画することで、業界を超えた協力関係の構築と環境に配慮した交通環境の整備に力を入れています。これにより、鉄道駅前や商業施設へのシェアモビリティステーションの設置加速化や市の抱える都市課題「自家用車依存からの脱却」を促す実証等を展開するなど、官民の枠を超えた連携を進めてきました。

また2022年に開設された「大宮ぷらっと」は、キッチンカーと複数のシェアモビリティサービスが一カ所に集約されモビリティハブとして機能しています。この取り組みは地域の交通と交流を促すモデルとして大きく注目されており、交通を起点にまちづくりを進めたいさいたま市とOpenStreetの共通の願いが具現化した事例といえます。

